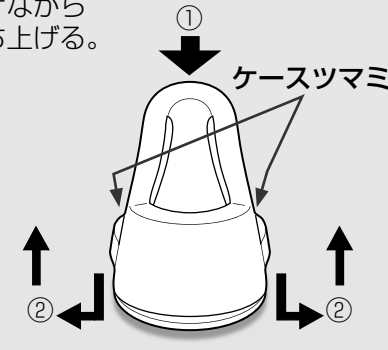
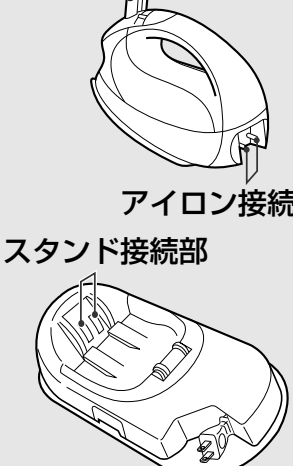


ケース

■ケースのはずしかた（テーブルなどに置いてから）
①ケースの上面を一度手で強く押さえる。
②次にケースツマミを持ってケースを押し下げながら外側に開いて持ち上げる。




接続部



アイロン接続部
スタンド接続部

温度設定つまみ




とって

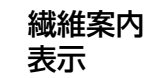
パイロットランプ

点灯・消灯により温度調整していることをお知らせします。

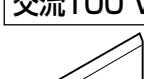
タンク



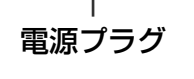
繊維案内表示




交流100V



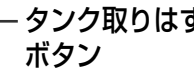
電源プラグ



アイロン



タンク取りはずしボタン



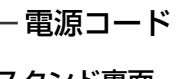
カバー

かけ面


赤印

●この印以上引き出さない。

電源コード



スタンド裏面



製造番号

クラブ/ナソニックのご愛用者登録時に必要です。

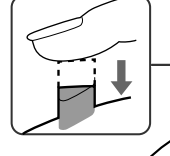
-8-

タンクに上水道の水を入れる

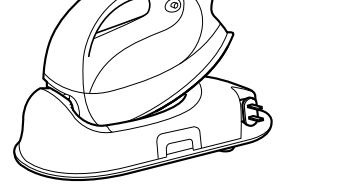
(ドライで使う場合は水は不要)

①ドライ/スチーム切換ボタンを「**㊦ドライ**」にする

(水漏れ防止のため)



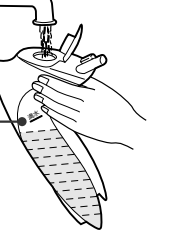
②タンク取りはずしボタンを押しながら、タンクをはずす



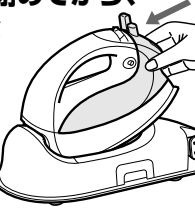
③注水口ふたを開け、水を入れる

上水道以外の水を入れない

満水目盛まで



④注水口ふたを必ず閉めてから、「カチッ」と音がするまで押してタンクを取りつける



こんな水は入れないで！

●ミネラルウォーター
●アルカリイオン整水器の水
●リネンウォーターなどの香料を含んだ水など

●軟水器の水

●水を入れ過ぎるとスタンドに置いたとき、スチームが出ます。
●タンクに水を入れる前に、電源プラグをコンセントへ差し込まないでください。

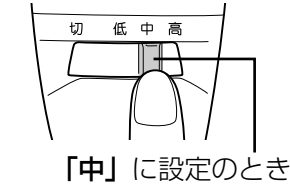
2 温度設定つまみを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込む

3 衣類の取り扱い絵表示を確認して、温度設定つまみで温度を設定する

●衣類の生地によって、使用できない生地もあるため、使用前に衣類表示をよくご確認ください。
●温度を設定するとパイロットランプが点灯します。
●スタンドに置かないと、温度設定ができません。

㊦ドライ

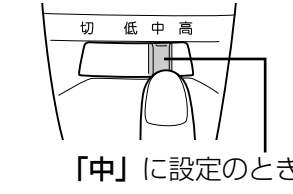
「低」・「中」・「高」のいずれかに設定する。



「中」に設定のとき

㊦スチーム


「中」・「高」のいずれかに設定する。



「中」に設定のとき

☁️ショット

必ず「高」に設定する。



●「低」や「中」では、水漏れしたり、ショットが出ないことがあります。

-9-

水漏れストッパー

■スタンドからはずして、連続してアイロンかけできる時間（スチームアイロン時）
⇒ 約1分30秒～約2分（「高」の場合）
●使用条件により異なります。

●繊維専用です。他の目的で使わないで！

●布地を傷めないために低温・中温表示などの熱に弱い布地や色の濃い布地には目立たない部分に「ためしげ」をし、必要に応じて「あて布」をしてください。

●布地のテカリを防止するには「あて布」をしてください。

絵表示の見かたと温度の関係

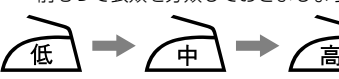
繊維表示の見かたと温度の関係

繊維製品の絵表示	低	中	高
衣類・布地の種類	アクリル アクリル系 ポリウレタン ポリプロピレン	絹・毛・ナイロン ビロン・レーヨン（長繊維） キュプラ・アセテート ポリエステル	綿 麻 レーヨン（短繊維） ポリノジック
温度設定位置	低	中	高
かけ面の温度	約120℃	約160℃	約205℃
設定温度になるまでの時間	約30秒	約40秒	約50秒

混紡の場合は、低い方の繊維の温度に合わせてください。

低温のものから高温のものへ

アイロンの温度上昇に応じてかけると、時間のムダがありません。
●高い温度から低い温度に設定すると、低い温度になるまで十数分かかる場合があります。



-10-

アイロンかけのポイント

すべらす
必要以上の力をかけないで衣類の上を軽くすべらせるだけでOK！

押さえる
折り目ははっきりつけたい所やガンコなシワの部分はしっかりと押さえて。

浮かせる
毛足の長いウール繊維の仕上げや、こみ入ったデザイン部分の仕上げに。

両手を使って
空いた方の手で布地を引っ張ったり、アイロンを持ち替えたり、両手でまんべんなく。

一方方向に
往復させたり、無理な方向にかけると、もどりシワができます。

縫い目は引っ張り気味に
細かいシワが残らないように片方の手で引っ張り気味に。

カフス
内側にアイロンをすべり込ませながらしっかりと。

襟
引っ張りながら、両端から中央に向かって半分ずつかけます。

スプレーのり・洗濯のりなどを使うとき

スプレーのりなどの仕上げ剤
洗濯物をよく乾かしてからスプレーのりをかけ、必ず「ドライ」でアイロンかけを！（P.13）

洗濯のりづけをした生乾きの衣類
「ドライ」でアイロンかけを！

●少し固めに仕上げたいときは…
スプレーのり ⇒ アイロンかけ（ドライ）
を繰り返します。
（一度に多量のスプレーのりをかけると、かけ面にこびりつく原因になります。）

アップリケ、裾上げテープなど、のりがついているもの
必ず「あて布」をして、アイロンかけを！

かけ面にのりが付着した場合は、その都度お手入れを！（P.14）
●付着したまま使うと、かけ面にのりがこびりつき、取れにくくなります。

-11-

4 パイロットランプが『点灯→消灯』したら使用する

●アイロンをスタンドからはずすと、パイロットランプは消えます。

ショットボタン

ガンコなシワを上手に伸ばすには
ショットをかけると効果的です。

●ショットボタンを操作する。
●ショットボタンを押したときのみ、強いスチームが出ます。
●連続でショットボタンを押す場合は、2秒以上間隔をあけて使用してください。
●スタンドからはずしてショット可能な回数は5～10回が目安です。
●ショットの勢いが弱くなったら、給電してからお使いください。

●スチーム使用時にショットボタンを操作すると、ショットの勢いが弱くなる場合があります。
●ドライ/スチーム切換ボタンを「ドライ」にするとショットの勢いが強くなります。

パワーショット
アイロンを水平にして使う。

ハンガーショット
アイロンを立てて使う。
軽く引っ張る

かけ面を衣類から離して、目立たない所にためしげをしてからお使いください。（特にカシミアなどの起毛性衣類）

ご使用例
●セーター
全体仕上げ
●伸びきった袖口やゴム編み部分
ショットをたっぷりかけ、たて方向に引っ張りながら整えます。
●ハンガーにつるしたままの衣類に
コートや毛足の長い衣類は…
ショットをかけた後、水分を残さないようにお手持ちのブラシで毛足を整えます。

ドライ/スチーム切換ボタン

㊦ドライの場合
「㊦ドライ」にする。
●温度設定を高い温度から低い温度に変えた場合は、パイロットランプが点灯するまで待ってからご使用ください。

㊦スチームの場合
「㊦スチーム」にする。
●逆方向や横方向に置くと、接続部が変形して通電できなくなります。
●アイロンをスタンドへ戻したときに、パイロットランプが点灯していれば、消灯するまでお待ちください。

給電をしましょう（必ず専用のスタンドをお使いください）

●室温が暖かい場合、スチーム/ショットの蒸気が見えにくくなります。
●タンクの水が少なくなったとき…満水目盛まで水を入れてください。
●使いはじめに出にくいとき…たまった気泡を取り除くため、ショットボタンやドライ/スチーム切換ボタンを数回操作してください。
●使用中に出にくくなったとき…かけ面の温度を上げるためアイロンをスタンドへ戻し、パイロットランプが点灯から消灯になるまでお待ちください。

スチーム/ショットが出にくいとき

●室温が暖かい場合、スチーム/ショットの蒸気が見えにくくなります。
●タンクの水が少なくなったとき…満水目盛まで水を入れてください。
●使いはじめに出にくいとき…たまった気泡を取り除くため、ショットボタンやドライ/スチーム切換ボタンを数回操作してください。
●使用中に出にくくなったとき…かけ面の温度を上げるためアイロンをスタンドへ戻し、パイロットランプが点灯から消灯になるまでお待ちください。

-12-

5 ご使用後は

①温度設定を「切」にし、電源コードを収納する

●ご使用後は必ず「切」にしてから電源プラグを抜いてください。

②ドライ/スチーム切換ボタンを必ず「㊦ドライ」にし、タンクの水を捨てる

●水を捨てた後、タンクに水滴が残りますが、差し支えありません。

③ケースをまっすぐかぶせ手で押さえ確実にセットする

●ケースをスタンドへ確実にセットする（運搬時）（アイロン、スタンドが落下してけがの原因）

●アイロンは熱いまま収納できますが、ケースに水滴がつく場合があります。

警告

●電源プラグを持って巻き取る（プラグが当たって、けがの原因）

注意

●ケースをスタンドへ確実にセットする（運搬時）（アイロン、スタンドが落下してけがの原因）

お手入れ

●電源プラグを抜き、よく冷めてから！

かけ面に付着したのり
よく冷えてから、その都度ぬれた布でふき取る

●クリーナー・シンナーなどは使わないでください。

●アイロンは熱いまま収納できますが、ケースに水滴がつく場合があります。

●磨かないでください。（接触不良の原因）

●通電したままケースをセットしないでください。

-14-

＜無料修理規定＞

1.取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
(イ) 無料修理をご依頼になる場合には、商品に取扱説明書から切り離れた本書を添えていただきお買い上げの販売店にお申し付けください。
(ロ) お買い上げの販売店に無料修理をご依頼にならない場合には、お近くの修理ご相談窓口にご連絡ください。
2.ご相談窓口の修理ご相談先等は、お買い上げの販売店またはお近くの修理ご相談窓口にご相談ください。
3.ご贈答品等で本保証書に記入の販売店で無料修理をお受けにならない場合には、お近くの修理ご相談窓口へご連絡ください。
4.保証期間中でも次の場合には原則として有料とさせていただきます。
(イ) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
(ロ) お買い上げ後の取付場所の移設、輸送、落下などによる故障及び損傷
(ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変及び公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷
(ニ) 車両、船舶等に移載された場合に生ずる故障及び損傷
(ホ) 一般家庭用以外（例えば業務用など）に使用された場合の故障及び損傷
(ヘ) 腐食、穴つまみによる故障及び損傷
(ト) プラスチックの表面（フッ素樹脂加工も含む）及びメッキの腐食や打痕による損傷
(チ) 本書のご添付がない場合
(リ) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
(ヌ) 持込修理の対象商品を直接修理窓口へ送付した場合の送料等はお客様の負担となります。また、出張修理等を行った場合には、出張料はお客様の負担となります。
5.本書は日本国内においてのみ有効です。
6.本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
7.お近くのご相談窓口は取扱説明書の保証とアフターサービス欄をご参照ください。
(ご相談窓口一覧表を同梱の場合)
お近くのご相談窓口は同梱別紙の一覧表をご参照ください。

修理メモ

※お客様にご記入いただいた個人情報（保証書控）は、保証期間内の無料修理対応及びその後の安全・検閲活動のために利用させていただきますが、ごさいますのでご了承ください。
※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理ご相談窓口にお問い合わせください。
※保証期間経過後の修理や補修用性能部品の保有期間については取扱説明書の「保証とアフターサービス」をご覧ください。
※ This warranty is valid only in Japan.